

七十七ニュービジネス助成金受賞

第14回(平成23年度)

企業
インタビュー

Interview

トライポッドワークス 株式会社

代表取締役社長 佐々木賢一 氏



会社概要

住 所：仙台市青葉区一番町1-1-41
カメイ仙台中央ビル7F
設 立：平成17年
資 本 金：71百万円
事業内容：ITシステム開発・販売
電 話：022(227)5680
U R L：http://www.tripodworks.co.jp/

東北大 IIS 研究センターのアドバイスを受け、地域医療連携向けの高速画像処理共有システム「Med.i.Compressor」を開発、診断画像の高速送信と安価で簡単なシステムの構築に成功

今回は「七十七ニュービジネス助成金」受賞企業の中からトライポッドワークス株式会社を訪ねました。当社は、セキュリティソリューション事業、先端技術開発事業、ITサービス事業を柱とするシステム開発会社です。当社の佐々木社長に、新システム開発など今日に至るまでの経緯や今後の事業展開などについてお伺いしました。

ローカルの強みを活かす

——七十七ニュービジネス助成金を受賞されたご感想をお願いします。

今回で3度目の応募だったのですが、ようやく受賞できたことを大変嬉しく思っています。過去に国や業界団体から表彰を受けたこともあります。ITという業務分野の中での受賞でした。今回はIT限定ではなく、様々な業界の企業がエントリーしている中で受賞できたということに意味があると思っています。

頂いた助成金は、今後の研究開発の費用として有効に使わせて頂きました。

——会社の設立経緯を教えてください。

以前勤めていた外資系のIT企業で東北支社の立ち上げを任せられ、中小企業のお客様を担当した際に、大手企業よりも中小企業の方がITで困っているなど感じました。なぜなら、人員不足や資金不足などでITを導入できない、導入したものの活用できていないという中小企業が多くあったからです。しかし、中小企業にもITへのニーズはありますので、中小企業のニーズに応えられるようなサービスを提供できる会社を起業しようと思いました。中小企業

向けITサービス分野は、大手IT企業が参入していないマーケットだったのでビジネスチャンスがあると思いました。

そして「仙台で起業する」という点に優位性があると思いました。例えば、IT関連の職に就きたいと考えた時、地元を離れて東京に出ていく人が多いです。なぜなら、地方のIT企業の仕事は大手の下請けや孫請けの仕事が多く、東京のIT企業のような最先端の技術を使ったクリエイティブな仕事が行えないからです。しかし、IT関連の企業に就職を希望する人の中には、地元に残って仕事をしたいと考える人や、Uターン・Iターンを志向する人も意外と多くいるのです。そこで、地方にいながらにして東京のようなクリエイティブな仕事が行える環境があれば、優秀な人材を確保することができると思いました。

また、仙台は東北大学をはじめ、大学や高等専門学校などITに特化した優秀な技術者を輩出する研究機関が多くあります。その研究機関に眠っている研究シーズをビジネスニーズとマッチングさせられるのではないかと思います。東京で当社のようなベンチャー企業が研究機関と連携しようとするのは雲を掴むような話ですが、仙台であれば可能だと思いました。

経営基盤の強化という面から見ても、仙台は金融機関をはじめ行政やメディアといったファンクションが揃っています。それらが見通せる距離感にコンパクトにまとまっているので、何か事業を起こそうとした時に、応援してくれる企業や団体と結び付きやすいと思いました。

このような点をトータルして「ローカルの強みを活かしたグローバルな事業展開」をコンセプトに起業しました。

——設立時の苦労話などあればお聞かせ下さい。

まずは、会社のコンセプトを理解してくれる社員を集めることに苦労しました。設立当初は知名度も実績もありませんので、どうやってこのコンセプトを理解してもらうかということが難しかったです。今でこそ、このような取材をしていただいたり、事

業をアピールする機会を頂けていますが、当時はそのような機会はありませんでした。

あとは、やはり資金繰りです。通常のIT企業の場合、多くはシステムエンジニアの時間を売って収益を得るモデルになっています。「一人当たり〇万円の人が〇日働いたので今月はいくらになります。」という方法で、毎月一定の収入があるので資金繰りはそれほど難しくありません。

しかし、当社の場合は製品・ソフトを開発・販売し収益を得るモデルです。製品・ソフトがすぐ売れるという保証はありませんので、どうしても先行投資になってしまいます。より良い製品開発には経験豊富な技術者が必要になりますし、1人では作れないので、ある程度の人数を確保しなければなりません。しかし、製品をまだ売っていないので人を雇うお金がない。創業から4年くらいは本当に資金繰りとの戦いでした。



職場風景

パートナー企業の存在

——社名の由来について教えてください。

トライは「3」、ポッドは「足」という意味で、トライポッドとは「三脚」という意味になります。私は、お客様と1対1の取引を行うよりも、パートナーとなる企業と連携して役割分担をしながら事業を行う方が、効率よく、互いの強みを活かし、大きな成果を上げることができると考えています。そこで、少なくとも3社で役割分担をして事業を行ってこ

うということをお脚に例えました。ワークスは「工場」という意味なので、当社は様々な三脚を作る工場になろうと思っています。

また、三脚は四脚よりも安定していて、デコボコしている地面でも必ず3つの脚が地面に着くようにできています。IT業界は波がありますが、その中でもしっかりと安定できるようにという気持ちも込めて「トライポッドワークス=三脚の工場」という社名にしました。

——経営理念についてお聞かせ下さい。

経営理念ですが「人材が1番」ということですね。人材は、当社にとってそれ以外考えられないというくらい大切な経営資源です。

私は、仕事を行う上で、人がもともと持っている才能や培ってきた技術よりも、やる気があるか、将来的な夢や目標があるかということの方が大切だと思っています。したがって、当社では、仕事が楽しいという感覚と、夢を実現できる場所を提供したいと考えています。地方にいながらにして、①グローバルな事業展開、②最先端技術を使ったモノづくり、③世の中にないものの創出、が可能であるという考えを社員全員で共有しモチベーションを高めることによって、夢や目標が実現すると思っています。



本社メンバー

もっと簡単に、もっと安全に

——事業内容について教えてください。

当社は大きく2つの事業を行っています。1つはセキュリティソリューション事業です。これは企業に必須のインターネットを、簡単に安全に運用するための仕組みを提供しています。私たちの生活はITであふれていますが、その中で私がすごいと思うのは昔からあるいわゆる電話機です。地球を覆い尽くすような巨大な通信網に、ダイヤルを回すだけという簡単な操作でアクセスし、世界中の人とリアルタイムで話すことができるからです。特に、子供から年配の方まで誰もが使えるということは本当にすごいですね。それに対して今のITはどうでしょうか。難しいことをするためには難しい操作をしなければならないことが多いように思われます。しかし、難しいことを簡単にするのが本当のITです。そこで、当社のこの事業では、インターネットを簡単に使うという側面と、安全に使うという側面を両立するようなシステム、つまりビジネスコミュニケーションを円滑にするようなシステムを開発・販売しており、これまで6,000社以上の企業にお客様となって頂いています。

もう1つが先端技術開発事業です。こちらでは数年先に大きくなるであろうと思われる分野のビジネスニーズを先読みし、研究機関の研究シーズをうまく活用させて頂きながら技術開発を行っています。今回助成金を受賞した「Medi.Compressor」もその1つです。



製品写真

遠隔救急医療

——「Med. i. Compressor」の開発経緯について教えてください。

東北大学に、「CTやMRIといった医療画像を小さくして転送速度を速くすることはできないか」という相談が鹿児島県の医師会からきました。なぜこのような相談がきたのかというと、鹿児島県の離島などの病院ではCTやMRIを撮影することはできても、その医療画像を読影し診断できる医師が不足しているため、撮影した医療画像を、読影できる医師が勤務する都内や鹿児島市の病院に送らなければならないからです。

しかし、医療画像はデータサイズが大きいため従来のADSL通信回線のような細い回線では送信に時間がかかってしまいます。例えば、約1.5ギガバイトの画像サイズ（CD-ROM約2枚分）を送るのに約3時間かかってしまいます。脳卒中の初期処置に必要な時間が30分以内ということを考えると、どれだけ遅いのが分かります。

さらに、このような遠隔医療を行うためにも大変高額な医療情報システムの構築が必要であるため十分に普及していない状況にあります。

東北大学には、画像を圧縮する知見はありますが、実際にそれを機器として開発する役割はありません。そこで当社の技術力を活かし、東北大学IIS研究センター（東北大学大学院工学研究科情報知能システム研究センター）のアドバイスを受けて開発したのが「Med.i.Compressor」です。



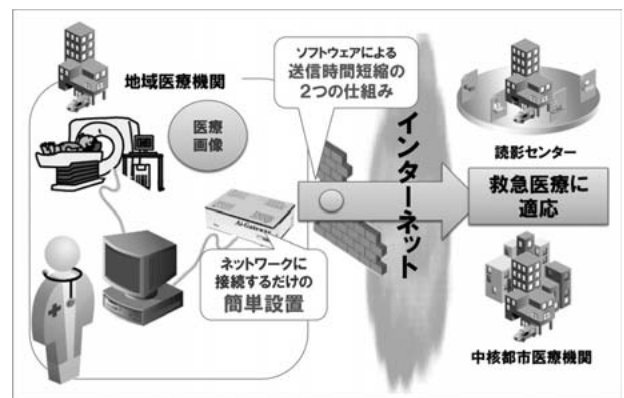
「Med.i.Compressor」

——「Med. i. Compressor」の具体的な内容について教えてください。

通常、画像を圧縮する際はCPU（Central Processing Unit）というプロセッサ（演算装置）を使用します。これは、コンピュータに与えられる様々な処理を汎用的に実行するための装置で、複雑な画像処理を高速に行うことには向いていません。一方で、GPU（Graphics Processing Unit）という画像処理に特化したプロセッサがあります。GPUは、従来ゲームに代表されるような3D処理に使用されているもので、画像処理に必要な計算を短時間で行うことができます。当社では、東北大のアドバイスを受けてこのGPUを画像圧縮処理に転用し、独自の画像圧縮技術を開発しました。

また、救急医療の現場では、迅速な初期診断が必要とされます。そこで、当社では「Med. i. Compressor」を使って二段階の対応が行えるようにしました。まずは撮影した医療画像のうち至急で必要な一部を圧縮し短時間で送信することによって、医師による迅速な初期診断を可能にしました。その後、非圧縮データを送信することにより全体の診断が行える仕組みになっています。このシステムにより、医療環境が十分整備されていない離島や過疎地等の地域においても迅速な初期診断や適切な医療を行うことが可能になります。

実際に、4月1日から鹿児島県で稼働しています。



「Med.i.Compressor」の仕組み

——他社製品との違いを教えてください。

大きく3つの違いがあります。1つ目は、ネットワークに接続するだけというシンプルさです。システム開発の仕事は、開発したシステムをパッケージソフトという形でソフトに価格を付けて提供することが多くあります。しかし、ソフトだけでは動きません。ソフトを動かすためのコンピューターを用意しソフトをダウンロードしなければなりませんし、さらに、ネットワークの環境を整備したり、実際に使えるようになるまでには手間と時間がかかります。当社では、そのような手間をなくすため、ハードとソフトを一体化させた完成品を提供しています。購入していただいた後は、ネットワークに繋いで電源を入れて頂くだけで使えます。

2つ目は、汎用部品を使用しているため、安価な価格で提供できるということです。他社の場合は、専用医療機器を使用するため数千万から数億という高価格になってしまいます。しかし、当社が開発した「Med.i.Compressor」はパソコンに使用される汎用部品のGPUを使用しているため安価な価格で提供することができます。

3つ目は、短時間で画像を転送できるということです。先ほどお話したように、GPUは画像処理に特化したプロセッサなので、短時間で画像を圧縮することができます。さらに、当社では独自の画像圧縮技術を開発いたしました。従来は、逐次処理で先頭から順番にデータ処理を行うため時間がかかっていました。当社の画像圧縮技術は、並列処理で複数のデータを同時に処理するため従来の10分の1以上の速さで処理を行うことができます。



「Med.i.Compressor」の機能

——「Med. i. Compressor」の販売先についてお聞かせ下さい。

「Med.i.Compressor」自体は、地方の病院が多くなると思います。しかし、開発にあたって得た技術は医療のみならず様々な分野に応用できると考えています。画像や動画を扱う業種は多くありますが、例えば写真スタジオでも活用できると思います。撮影方法がカメラからデジタルカメラに変わり、一度に撮影する枚数が増え、データの保存に困っているという話を聞いています。そこで、今回開発した画像圧縮技術を応用することができます。撮影したデータを圧縮して保存することにより、現在よりも多くの写真を保存できるようになります。今回は送るために圧縮しましたが、保存するために圧縮するという方法も有効だと思います。

——今後の事業展開についてお聞かせ下さい。

まず、医療分野において業務展開を考えています。例えば、医療器具等でデジタル表示なのにデジタルデータとして取り出せないものが多くあります。体温計や血圧計など、デジタル表示なのにデータをパソコンに取り出せないのです。しかし、そのデータを取り出してグラフ化したり、データベース化したいというニーズはあると思います。そこで現在、表示されたデータをスマートフォンのカメラで読み取ってデジタルデータ化できるようなシステムを開発中です。

次に検討しているのが農業分野です。今年の2月に、大学、IT関連企業、営農者等のメンバーを中心に「東北スマートアグリカルチャー研究会」が発足されました。この団体は、高齢化や後継者不足等の様々な課題を抱える農業分野において、ITを活用し新しい農業の形を生み出していこうという考えから発足したもので、当社もメンバーとして参加しています。

農業へのIT導入は、これまで主にコスト面の制約からなかなか進んでいませんでしたが、クラウドコンピューティングのサービスや安価なセンサーなどの登場により、実現への道筋が見え始めています。現在、この団体に参加するメンバーと協力して様々

な実験も行っています。ITを活用することによって、今よりもっと効率よく農業を展開し、農業が抱える問題をITで解決できればと考えています。

復興にITを

——東日本大震災についてお考えになられたことなどお聞かせ下さい。

仙台に本社を構えていることもあり、今回の東日本大震災においては、否が応でも大きく関わらざるを得ない立場にあると思っています。ボランティア精神だけではなく、企業人としてITで復興に関われないかと考え、昨年4月に「ITで日本を元気に！」というプロジェクトを立ち上げました。仙台及び東京のIT業界を巻き込んで、IT業界として、ITに携わっている企業の人間として、継続的に復興に関わっていくことができるのではないかと思います。被災者の生活支援や事業復興には、パソコンやネットワークが役立つと考え、現在までに約500台のパソコンを避難所や事業の再生を目指す企業に提供しました。

この震災復興は、支援を行うだけではなく、地域の方々と一緒に取り組まなければならないものだと思います。今後もIT企業として何ができるのかを継続して考え、地域の方々とうまく役割分担をして復興に関わっていきたいと思います。



避難所でのPC設置の様

——最後にこれから起業する方へメッセージをお願いします。

仙台は起業するのにとてもよい環境が揃っている、ぜひチャレンジしてほしいと思います。ただ、なぜ今までチャレンジする人が少なかったかという、身近な成功事例が少ないからだと思います。ですから、私も仙台で起業したからには、仙台ならではの事業モデルを成長させ、地方企業のロールモデル（模範）の一つを作りたいと考えています。

当社は、今年の5月決算で売上が前年比50%増となり、この3年間で5.7倍に拡大しました。確実に業績が伸びていることや今回のような表彰を頂いたことが、次なるモチベーションとなり、責任にもなっていると思います。

ベンチャー企業の成長は、地方の活性化、更には日本の活性化に直結していると思いますので、少しでも貢献できれば嬉しく思います。また、当社の成長が刺激となって、新しい風を運んでくれるような企業が次々に生まれてくれば更に嬉しいと考えています。



佐々木社長

長時間にわたりありがとうございました。御社の今後のますますの発展をお祈り申し上げます。

(24.5.14取材)